

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174701037		
法人名	医療法人 前田クリニック		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	上川郡清水町南1条3丁目20-2		
自己評価作成日	平成26年2月26日	評価結果市町村受理日	平成26年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [index.php?action=kouhvou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0174701037](http://index.php?action=kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0174701037)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療との連携が強く、健康面での不安についてはかかりつけ医・看護師が、どんな場面でも柔軟な対応を頂き入居されているご本人だけではなくご家族からも安心できるとの声が聞かれています。また職員も、常に入居者様が主体とした生活が過ごせるような環境作りや支援に努め、入居者様とご家族、また地域の方のご協力を頂きながら、地域に根ざし皆様に愛されるグループホームを目指しています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月26日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に医療法人前田クリニックが開設したグループホームうららは、「グループホームの生活の中心に入居者がいる」を理念とし、代表者・全職員が“利用者の為に”ではなく“利用者と共に”の方向性を共有した介護支援に取り組んでいます。当事業所では利用者と職員の隔たりが無く利用者と支え合う関係を築いています。又、職員間のコミュニケーションも良好で笑い声のある明るい雰囲気が伺えます。法人の医療機関がすぐ近くにあり、24時間対応可能となっており、医療面での連携は家族の安心感へと繋がっています。地域活性化に向け、地域と協力関係を構築したり、町内の他のグループホームと連携し、研修会に参加したりと外部に向けた活動も積極的に行われています。ヒヤリハット記入用紙の下段に書かれてある職員に向けたメッセージ「気付いてくれてありがとう」は、職員の精神的負担に配慮した温かな職員育成に向けた心使いが見られます。代表者・管理者は常に現状に満足する事無く事業所のサービスの質の向上に向け、次年度は利用者の嗜好調査やケアプラン見直し時期の変更を計画し、前向きに取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果(1F)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示し、管理者と職員は常日頃から意識してより良い支援ができるように心掛けている。また年に一度、評価を行ない職員の周知徹底に努めている。	玄関・リビング等、目に付く所に掲示して浸透を図っています。職員は理念に込められた思いを理解し、日常業務に反映出来る様に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の行事等へは、入居者の希望を確認し、体調に合わせ参加している。また、ボランティアの受け入れを通し交流に努めている。	町内会に加入し新年会・交流会・パークゴルフ等の行事や、町内活性化に向けた取り組みに参加し連携を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所周辺の花壇の整備を入居者と一緒に行い、地域住民の方々にも触れあって頂き理解してもらえよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して日常生活での様々な報告を行い、意見を頂きサービス向上に努めている。	利用者家族・民生委員・他グループホーム職員・地域包括支援センター職員・町職員等が参加して状況報告、行事報告、懸案事項等について話し合い運営に活用しています。家族の参加が多く、議事録は欠席者に送付し情報共有に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当職員から、適宜アドバイスを頂き、事業所運営の適正化を図り、グループホームの質の向上に努めている。	運営推進会議に町職員の参加を得ています。行政とは常に連携を取り、会議出席や相談・情報交換に努めています。行政が主催する“西十勝の輪”と称する高齢者福祉の勉強会に参加しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議内で身体拘束についてを話し合う機会をもうけ、事例があれば対応等の検討をしている。	身体拘束委員会がアンケートを実施し、職員の自覚を促しています。気になる言葉掛けがあった時には、他職員がカバーし職員全員で取り組み、身体拘束をしないケアに努めています。やむを得ない場合の対応に付いては利用開始時に説明し、同意書を交わしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議内で虐待についてを話し合う機会をもうけ、事例があれば対応等の検討をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、倫理要綱については、職員が読めるよう掲示している。また、成年後見制度については施設内で研修会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には、必ず、十分に説明しご家族の同意、理解を得ながら行っている。また、疑問、不明な点などは、その都度説明しご家族の負担にならないよう配慮した対応を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し書面で投稿できるよう対応している。また、ホーム内でも、苦情担当や、第三者の苦情受付を設置し、ホームに対しての苦情を広域で聞けること化できるような体制づくりを行っている。	年4回事業所便りを発行し様子を伝えています。家族の面会時には日頃の状況を報告し、希望や要望の把握に取り組んでいます。家族会を開催し、交流に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、職員同士で話合う機会を設け意見や提案を引き出せるようにしている。また、適宜、職員に対しても日常の悩みなどについても話せるように面談なども行っている。	管理者は、毎月開催のフローア会議・職員全体会議を職員の意見要望を聞く機会としています。また、随時面談を行っています。職員が参加する事故対策・感染・身体拘束・サービス向上の各委員会活動を運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、働きやすい職場環境作りを目指している。職員同士で話し合い今以上に向上心が持てるような職場環境を目指していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、勉強会などに参加できるように努めている。勤務上の理由で参加出来ない職員においては参加した職員から伝達し繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある事業所と連携を図り行事などに参加し交流をしている。十勝グループホーム協議会での研修会を通し、質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ケアマネジャーと面談し事前に情報を得て安心して入居生活が送れるように本人の希望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、説明をし要望に応えられるように努め、スムーズに入所できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報を収集しアセスメントを行ないケアプランを作成している。他のサービス利用を含めた対応には努めていないが当法人の社会福祉士と連携し必要に応じた社会資源や他のサービスについて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき、入居者と職員が日々の生活の中で助け合いお互いに支えながら関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じて、ご家族の協力を得ながら、入居者がホームで穏やかに過ごせるように関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内で行っている行事などに参加したり、買い物や散歩を通して馴染みの場所や知人に触れ合えるように努め、また、気兼ねなく地域の友人などが訪問しやすいホームの雰囲気作りに心掛けている。	知人・友人が訪ねてきたり、昔馴染みの場所に出掛けたりと利用者のこれまでの関わりの継続に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感を抱かないように職員がさりげなく声掛けし精神状態を把握しながら入居者同士の関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、ご家族には季刊誌を送付しホームでの活動報告をし繋がりを保持できるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、意向の把握に努め、把握が困難な場合も本人の視点で職員同士で話し合いその人らしい暮らしが出来るように努めている。	9つのチェックシートで構成された独自のアセスメントを活用し利用者の状況把握に努めると共に、日常の会話や様子、家族との会話の中から意向や要望の把握に努めています。次年度は嗜好調査を計画しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報を元にし馴染みの関係や環境の把握に努め、ホームでの生活が安心して過ごせるように支援している。また、必要に応じ、関係機関と連携を図るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員側からの一方的な生活(ケア)の提供ではなく、個々の過ごし方を尊重し記録などに残し職員間での情報提供をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族だけではなく、各専門職の意見や助言を取り入れ安心して生活できるよう総合的な介護計画を作成できるように支援している。	家族の訪問時にサービス計画作成者が意見要望を確認し、職員の意見や医療関係者の助言を取り入れ、状況に即した介護計画を作成しています。利用者の行動の記録に介護計画の短期目標を掲載し、支援に取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常生活の過ごし方の様子をできるだけ細かく記載し会話やしぐさなどからニーズを把握し介護計画に反映している。また、職員間での情報共有にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ、法人内での医師、看護師と連携し迅速な対応ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアなどの協力もあり、ホームでの暮らしを楽しめるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのある医師が開設したグループホームということで、入居者、ご家族と信頼関係が出来ており、週2回の往診を行っており、健康状態を常に把握できるように努めている。	母体が医療機関であり、利用者のかかりつけ医となっています。院長と看護師同行の往診が2週間に一度あり健康状態を常に把握し、適切な医療が受けられる様支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の際に看護師も同行して頂き健康状態の把握ができるようにしている。また、急変時、夜間帯なども電話で助言、対応してもらい協働してくれている。入居者、ご家族に安心してもらえるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などでの環境の変化で精神状態の悪化や認知症の進行を防止するために、スタッフは入院先に出向き、看護師などと情報交換をし他の職員にも報告を行い、早期退院に向け支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にグループホームでのターミナルケアの趣旨を説明し、適宜応じて疑問、不安なことなどを聞き対応している。入居者、ご家族が安心できるよう支援している。	利用契約時にアンケート調査をして利用者家族の意向を確認しています。事業所はターミナルケアのマニュアルに沿って説明し、家族との連携のもと事業所が出来る事を説明して、同意を得て取り組む事としています。病院のソーシャルワーカーにアドバイスを貰っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時など医師、看護師の協力を得て対応しているが、定期的に訓練を行っている状態ではない。今後の課題とする。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練など適宜実施しており、関係機関と連携を図り、助言、指導を受け対応している。また、毎月1回自主点検を行っている。	年2回地域の協力を得て避難訓練を実施しています。2階ユニットの利用者は2階ベランダへ避難し、実情に合わせた訓練をしています。非常持ち出しファイルの用意や、災害時の避難待機場所等緊急時対応の情報を共有しています。	消防署による指導を得た避難訓練を始め、夜間想定等の防災体制構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような声掛けや、声の大きさに配慮し日常生活を支援している。個人情報についても、個人ファイルを作成し管理保管している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、不快な思いをさせないように心掛け、日々の支援は職員一人に任せきりにしないで、皆で行うよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や表情などからご本人の思いや要望を読み取れるように努め個々にあった支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを尊重しその人らしい日常生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みのある理容店があれば行けるように同行するなどして支援している。また、状態に合わせホームでの理容の相談も対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前より入居者と職員が一緒になって準備する機会は少なくなってきたが、食事を準備する環境を工夫、検討し対応できるように支援している。	1週間の献立をたて、調理は利用者の状態に配慮しながら職員が担当しています。各ユニットのリビング入口に2日分の献立を掲示しており、面会に来た家族にも解るようになっていきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、飲水量などは記録し把握できるようにしている。また、身体状態などに応じ食事形態の工夫や検討をし栄養状態などの確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝時などご本人の状態に合わせて口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で記録を残し、個々の排泄パターンに合わせて排泄誘導している。	水分摂取量及び排泄は利用者全員の記録を取り、状態の変化が分かるようになっていきます。記録を参考に声掛けを行い排泄の自立に向けた支援に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動等の対応は行ない自然排便ができるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決めているが、身体的状態や本人の要望などがあつたときは柔軟に対応している。	入浴は週2回を基本に利用者のその日の状態や、状況を考慮して対応しています。浴室は三方から介助出来るようになっており、且つシャワーチェアも用意されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中と夜間が区別できるように衣類の交換を促し生活習慣に取り入れ、生活リズムを整えられるように支援している。また、寝付けない時などは会話などをして心が安らぐように工夫し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬に関してファイルし保管している。また、必要時、内服薬の種類や副作用について、薬剤師や医師などにも相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で役割を見つけ、ご本人の負担にならないよう、能力にあつた作業や趣味活動を支援し気分転換などに繋がるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望があれば外出ができるよう調整し地域との繋がりを大切にし個々の支援ができるよう努めている。	季節の花見にドライブをしたり、近郊の行楽地や、地域の行事に出かけ楽しんでます。夏になると外での作業を好む利用者もあり、個々の支援が出来るよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族にも説明し理解を得て、個々の希望に応じて金額を決め所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	馴染みのあるご家族や知人に電話ができるように、必要時、ホーム内にある公衆電話などの利用ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなど自然の光が差し込むようになっており、必要に応じて、カーテンなどで調光し対応している。また、季節に合った装飾をし工夫をしている。	各ユニットともリビングは明るくゆったりとした空間で、多数の加湿器、クーラーが設置されています。ユニット間ではテーブルの大きさ、配置を変え利用者の状況に合わせて快適に寛げるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下などにソファを置き入居者が個々に落ち着いて生活できるように工夫し状況に応じて柔軟な対応ができるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、ご本人、ご家族と相談し、馴染みのある家具などを持ち込んでもらうように支援し環境整備をしている。	洗面台・ベット・収納箆筒と事業所の備え付けの機器や家具が用意され、その中で利用者は使い慣れた馴染みの物を持ち込みながら居心地良く暮らせる様工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造になっており、浴室もADLが低下しても安心して入浴できるように補助具を整備している。安全でできるだけ自立した生活ができるよう考慮している。		